

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	システム工学実験第一		
英文授業科目名	Systems Engineering Laboratory I		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	5学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	3
科目区分	専門科目-専門共通科目-必修科目		
開講学科・専攻	システム工学科		
担当教官名	T全教官		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
2004年度世話人：山本 大屋	<a href="http://www.pclab.se.uec.ac.jp/workshop/">http://www.pclab.se.uec.ac.jp/workshop/</a>

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>必須項目。          主題と達成目標を以下の例のように(a), (b)と項目立てしないで、一文として記述しても結構です。          (例)          (a) 主題：学生がこの授業科目の意義を理解できるように、目的、背景、主たるテーマ、などを記述してください。          (b) 達成目標：学生がこの授業科目によって身につけるべき、知識、能力、スキル、などを記述してください。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
<p>この科目を履修するために、前もって履修しておくことが必須の科目を記述してください。必須のものがない場合は、「なし」と明記してください。          元来この項目は、ここに挙げた科目の単位を未取得の学生は、当該授業科目の履修が無理であることを意味していますが、厳格な運用には、未取得学生の措置、留年生の増大の可能性、等の問題があり、この項目の運用法については教育委員会での今後の課題としています。本年度は従来通り、学生にこの科目の履修に不可欠な知識・能力を明示するための記述としてお書きください。</p>

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
<p>上記の「履修しておくべき」程ではないが、この科目を履修するために、前もって履修しておくことが望ましい科目を記述してください。</p>

<b>【教科書等】</b>
<p>各項目ごとに資料を配布する。</p>

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

オリエンテーション（1回）の後、下記の8項目についてそれぞれ3週間にわたり実験を行う。前半の4項目では、ハードウェアの取り扱い、及び、その特性の計測。ソフトウェアのハードウェア化におけるアルゴリズムの検討、及び、実際のプログラミング。制御装置の設計、実際の制御、計測。コンピュータを用いた生体情報に関する計測、処理、評価、解析などを主に実習を通して習得する。後半の4項目では、ソフトウェア工学とその実践的な応用、データベースからの情報検索、生産現場における情報システムの設計と管理。品質管理における情報検索、情報システムの管理や運用、実験の計画、などを主に実習を通して習得する。

1. アナログ回路
2. デジタル回路
3. 制御工学
4. 生体情報の取得・解析・評価法
5. ソフトウェア工学
6. データマイニング
7. 生産マネジメント
8. 品質管理

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

欠席・遅刻・早退、実験への取り組み方、報告書を総合して評価する。

### 【オフィスアワー：授業相談】

各項目の担当教官の指示に従うこと。実験全般については世話人にコンタクトをとること。

### 【学生へのメッセージ】

原則として、全24回の実験へ休むことなく出席し、レポートを期限内に提出すること。実験の単位を修得するためには、全ての実験に真摯な態度で取り組み、適切な報告書を期日までに提出する必要があります。また、実験前日は十分な睡眠をとり、気力・体力の充実した態勢で実験に望むことを希望します。

### 【その他】